

ノリ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2023-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阿部, 真比古 メールアドレス: 所属: 水産研究・教育機構
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/268

ノリ

～海苔の歴史はめっちゃ古い!～

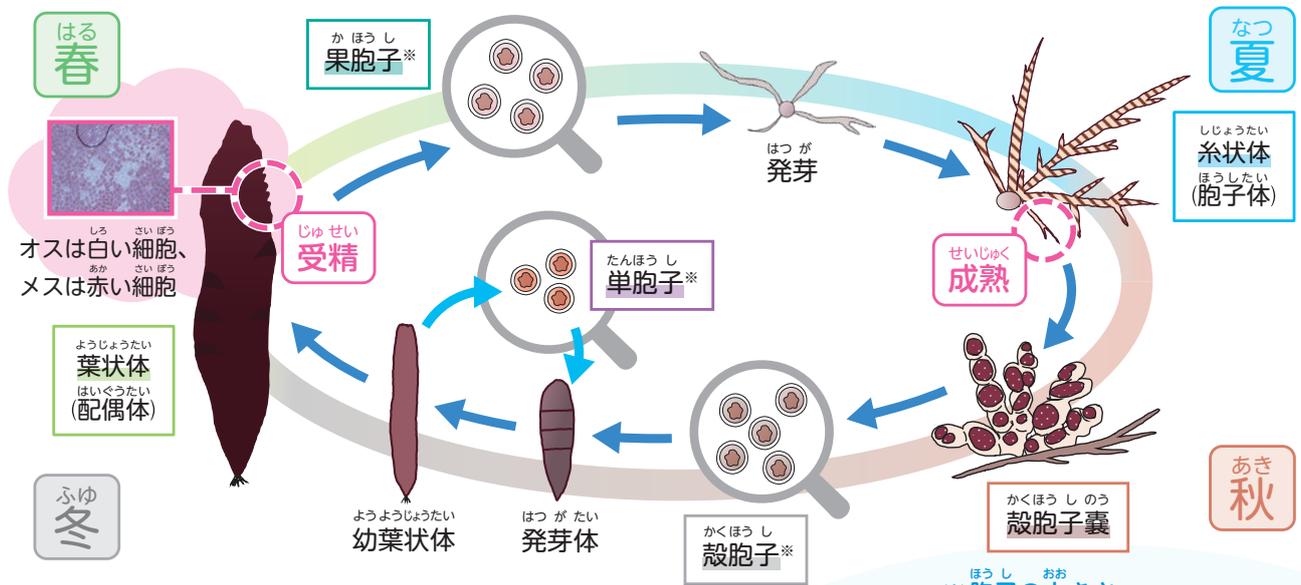


1 海苔

ノリは日本人にはよく知られた海藻のひとつです。『海苔』という漢字は、奈良時代(710年～794年)に書かれた本に出てきていて、江戸時代(1603年～1868年)にはノリ養殖も始まっています。皆さんも、海苔(1)を食べたことがあると思いますが、海苔は黒く見えますね。でも、海苔の材料になる

のは紅藻という赤い海藻の仲間です。海苔には、スサビノリやアサクサノリなどの種類が使われますが、お店の商品のほとんどはスサビノリ(2)が材料です。

スサビノリは、冬から春にかけて成長します。皆さんが食べている海苔は、葉状体(配偶体)です。



★ スサビノリの一生

※ 孢子の大きさ
直径10～15マイクロメートル
(1マイクロメートルは1ミリの千分の一)

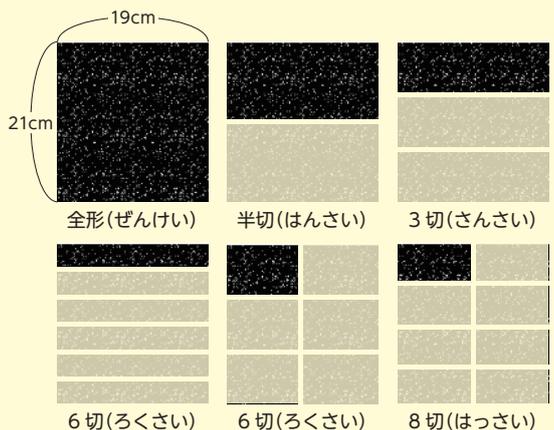


あんじいのワンポイントアドバイス

海苔の大きさ

海苔1枚の大きさは、タテ21cm×ヨコ19cmと決まっているのじゃ。海苔の商品には、全形、半切、3切、6切、8切といった表示があって、これは海苔の切り方を表している。全形は海苔を切っていない、半切はタテ2等分、3切はタテ3等分、6切はタテ6等分かタテ3等分×ヨコ2等分、8切はタテ8等分かタテ4等分×ヨコ2等分という意味なのじゃ。

あんじい：ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です



はる 春になると葉状体には、
オスとメスの細胞がで
きます。オスとメスが受精
すると果胞子が出て、
糸状体(胞子体)になり
ます。この糸状体は貝殻



2 養殖されている
スサビノリの標本

などの中に潜り込んで成長し、夏を越します。秋に
なると、糸状体は殻胞子嚢を作り、殻胞子を出し
ます。殻胞子は成長すると、葉状体になります。
葉状体の大きさが2ミリメートルくらいの時に、
葉の先の方から単胞子をたくさん出します。単胞子
も成長すると、葉状体になります(★)。

ノリ養殖は、網に殻胞子を付けて海に出します
(3)。成長の途中で大量の単胞子も網に付く
ので、たくさんのノリを作ることができます(4)。



3 ノリ網に殻胞子をつける作業

たくさんの殻胞子と海水が入った水槽で、
ノリ網を巻き付けた水車を回して網に殻胞子をつけます



4 海でノリを養殖しているようす

ノリ養殖は、佐賀県、福岡県、熊本県、兵庫県、宮城
県などが盛んです。ノリは1年間で30万トンほど
生産されて、70億枚ほどの海苔が作られています。
しかし、最近では、水温上昇でノリ養殖を始める
時期が遅くなったり、養殖できる期間が短くなっ
ています。また、ノリの成長に必要な栄養が海水中に
不足して、ノリが黄色くなる「色落ち」という現象も
起こっています。さらに、養殖しているノリをクロ
ダイやカモなどが食べてしまうという問題も起き
ています(5)。水産研究・教育機構では、ノリ
を生産している県と協力して、このような問題を
解決するための調査や研究を行っています。



阿部 真比古

5 養殖しているノリを
食べているクロダイ

山口県水産研究センター提供



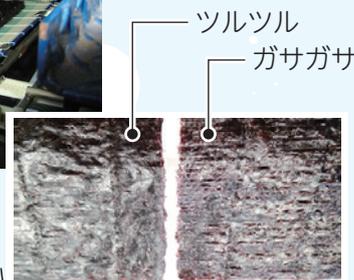
チェック

海苔には表と裏があります。ノリから海苔を
作るときに海苔簀の上で乾燥させるので、海苔
簀に付いていない方は、乾燥するとツルツルに
なります。反対に、海苔簀に付いている方は、
海苔を海苔簀からはがす時にガサガサになり
ます。ツルツルは表、ガサガサは裏になります。

のり おもて うら ちが
海苔の表と裏の違いはツルツルとガサガサ



のりす
海苔簀



おもて
表

うら
裏

